

2025年度活動報告書



ごあいさつ

東日本大震災の発生から15年が過ぎました。インターネット上での支援活動が大規模に行われた初めての災害であり、その振り返りの中から有志が集まって、情報支援レスキュー隊 (IT DART) が2015年8月に結成されました。

当初は、いつ誰を相手にどのような支援を行うべきか、災害支援の現場では何が起こっているのかも良く分からない状態でした。その後、災害支援に関わる皆さんから様々なことを教えていただき、活動スタイルが少しずつ固まってきました。それが今の「現場で活動する災害支援者を対象に、必要な機材や通信環境を確保しつつ、情報の収集・整理・発信も支援する」というスタイルです。つまり、被災者向けの直接支援はその道の専門家に任せ、それをITの専門家が情報で支援することが、被災した方々への支援を最も効率化できるだろうというものです。

IT DARTの活動は、連携・協力を頂いている災害支援者の皆さま、われわれの活動に賛同して機材や活動資金を支援してくださる皆さまからのご支援を受けて、続けることができます。その一端を、2025年度の活動報告書としてまとめました。皆さまのご協力に、厚く御礼申し上げます。今後も災害時の情報支援活動を進めていきますので、引き続きご支援ご協力をお願いします。

2026年7月

一般社団法人 情報支援レスキュー隊 (IT DART)

代表理事 佐藤大・宮川祥子

1. 被災した地域への支援活動

輪島市町野町復興ボランティアベースへの支援

輪島市町野町復興ボランティアベースは、令和6年能登半島地震と同年の奥能登豪雨災害からの復興を加速するために整備された、支援者向けの滞在拠点です。町野町には外部支援者が長期滞在できる場所がほぼ存在しなかったことから、有限会社川原農産の土地提供を受け、日本モバイル建築協会（現・一般社団法人日本オフサイト建築協会）と認定NPO法人ADRA Japanが中心となって整備・運営を行っています。

このベースへのネットワーク敷設について川原農産から支援依頼があり、日本オフサイト建築協会と協働して2025年9月からネットワーク構成や施工方法についての検討を開始しました。能登半島地震発災時に機材支援を頂いたNTTドコモ北陸支社に相談したところ、モバイルルーターの貸与に加え、現地調査とネットワーク構成の設計まで担っていただきました。また設置工事はADRA Japanが業者を手配し、2025年11月に完了しました。通信事業者・NPO・地元支援者が連携することではじめて実現した案件であり、IT DARTはこれらの関係者間のコーディネートを担当しました。

8月6日からの豪雨に関する支援

2025年8月6日からの豪雨で浸水などの被害が発生した鹿児島県の霧島市、始良市、南さつま市、鹿児島市を訪問し、被害状況の確認と情報支援ニーズのヒアリングを行いました。鹿児島県社会福祉協議会とも調整した結果、霧島市災害ボランティアセンターにプリンターとNTTドコモから貸与して頂いたスマートフォン、始良市災害ボランティアセンターにはNTTドコモから貸与して頂いたスマートフォンの支援を行いました。

また、被災した方々に対して復旧作業や生活のために使用する軽トラックや乗用車を貸与する活動を行う日本カーシェアリング協会からの依頼を受けて、NTTドコモから貸与して頂いたモバイルルーターの支援を行いました。

8月10日からの豪雨に関する支援

2025年8月10-11日の豪雨で熊本県の八代市や玉名市などで床上浸水被害が発生し、くまもと災害ボランティア団体ネットワーク (KVOAD) を中心に支援活動が展開されることとなりました。8月13日に熊本県社会福祉協議会から災害ボランティアセンター設置のための機材支援要請があり、有限会社咲楽屋からの貸与品およびIT DART所有のパソコンとプリンター、ソフトバンクから貸与を受けたタブレット、スマートフォン、モバイルルーターなど、合わせて100台を超える機器の提供を行いました。8月18日開催の火の国会議に現地参加して確認したところ、提

供した機材は災害ボランティアセンターが設置された玉名市に加えて、上天草市でも活用されているとのことでした。

なお咲楽屋からは能登半島地震対応のためにパソコン20台の貸与を受けており、その一部をこの災害でも活用しました。この20台はその後ご寄付頂き、以降の災害への対応でも支援機器として活躍しています。

8月20日からの豪雨に関する支援

2025年8月20日から北日本を襲った記録的豪雨によって秋田県仙北市西木地区などで甚大な被害が発生し、8月21日に仙北市災害ボランティアセンターが設置されました。秋田県社会福祉協議会を窓口とした依頼を受けて、NTTドコモから貸与を受けたスマートフォンを、仙北市災害ボランティアセンターに提供しました。現地ではkintoneと組み合わせて運用され、ボランティア受付や被災者ニーズの収集・管理に活用されました。

台風15号などに関する支援

2025年9月5日に上陸した台風15号や同日に発生した突風により被害が発生した静岡県吉田町や牧之原市を訪問して、被害状況の確認と情報支援ニーズのヒアリングを行いました。吉田町および牧之原市の災害ボランティアセンターに対して、IT DARTが所有するパソコンと、ソフトバンクから貸与を受けたモバイルルーターおよびスマートフォンを提供しました。また吉田町では、プリンター共有などの設定作業も行いました。さらに、災害発生時に増加する詐欺への注意を喚起するチラシも提供しました。

台風22号、23号に関する支援

2025年10月9日に伊豆諸島に接近した台風22号、23号により、東京都八丈町（八丈島）では強風による屋根被害や土砂災害などが発生しました。この災害を受けて、東京災害派遣福祉チーム (DWAT) による被災者支援活動が開始されました。東京都社会福祉協議会を窓口とする依頼を受けて、NTTドコモから貸与を受けたスマートフォンを提供しました。これらの端末は、静岡県牧之原市での静岡DWAT支援において運用していたものを、静岡県社会福祉協議会経由で八丈島へ転用したものです。現地ではkintoneと組み合わせた被災者調査に活用され、東京DWATの活動期間中、継続して運用されました。

大分市大規模火災に関する支援

2025年11月18日に大分市佐賀関地区で発生した火災は、鎮火までに半島部で10日、沖合の蔦島では17日を要する大規模な火災になりました。この火災を受けて、被災住民への生活再建支援に向けて大分DWATが派遣されました。大分県防災

危機管理課を窓口とする支援依頼を受けて、NTTドコモから貸与を受けたスマートフォンを提供しました。これらの機器は、被災住民への戸別調査においてkintoneと組み合わせて活用されました。

各地の災害ボランティア募集への支援

能登半島地震以降のさまざまな災害に関して、各地の災害ボランティアセンターや支援団体などが、災害ボランティアを募集していました。これらの情報を一覧表にまとめて毎週最新化するとともに、募集状況をSNSに掲載する活動を、2025年10月末まで継続しました。

支援団体への機器貸出実績

2025年4月から2026年3月までの間に、上記の情報支援の一環として貸し出した機器の台数は下表の通りです。

機器種別	貸出数
ノートパソコン	22
プリンター	3
モバイルルーター	31
スマートフォン	71
タブレット	30

2. その他の活動

被災した地域への支援活動以外にも、下記の活動を行いました。

能登HAPSパートナープログラムへの参加

HAPS (High Altitude Platform Station) は、日本語では「高高度プラットフォーム」と呼ばれます。高度約 20km の成層圏を長期間飛び続ける気球や航空機を基地局として通信を提供する、非地上系通信の一種です。NTTドコモとNTTコミュニケーションズが2025年3月に開始したのがこのプログラムで、産官学が連携して、HAPSを活用したソリューションやユースケースを創出することを目指すものです。

IT DART も、他の企業、自治体、研究機関などとともに、パートナー団体としてこのプログラムに参加しています。災害によって地上の施設・設備にダメージが出ていても、HAPSなら上空から安定した通信環境を提供できるのではないかと期待しています。

(NTTドコモ報道発表資料)

https://www.docomo.ne.jp/info/news_release/2025/03/03_02.html

NTTドコモとの協定締結

東日本大震災の発生からちょうど15年となる2026年3月11日に、NTTドコモと「災害時における相互協力に関する協定」を締結しました。

この協定に基づいて、NTTドコモからはモバイルルーターやスマートフォンなどの通信機器を供給して頂きます。IT DARTは、これらの機器を活用することでより充実した情報支援活動を展開します。一方で、IT DARTが被災地での活動を通じて、または連携する災害支援団体から得た情報を共有することで、NTTドコモは被災地の状況に寄り添った復旧支援活動を行います。

(NTTドコモ報道発表資料)

https://www.docomo.ne.jp/info/news_release/2026/03/11_00.html

NPO法人 災害支援DXイニシアティブへの参加

2023年6月に発足した災害支援DXイニシアティブに、IT DARTも発起人組織として参加しています。

全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOD) が2025年11月11日開催した「第8回災害時の連携を考える全国フォーラム」では、災害支援DXイニシアティブとして「災害支援における生成AIの活用」と題した分科会を開催しました。生成AIの特徴を説明する講演と、生成AIと個人情報との関係に焦点を当てた講演を行い、参加者とともに災害対応での活用可能性について議論しました。また2026年2月14日には、災害支援DXイニシアティブがオンラインイベント「災害支援における生成AIの活用」を開催し、ご参加いただいた災害支援団体の方々とともに、生成AIを実際に使ってみるワークショップを行いました。

(災害支援DXイニシアティブ)

<https://www.saigaidx.jp/>

3. 情報発信など

災害時や被災地での活動以外に、災害や災害支援、情報支援に関する情報発信を行っています。

メディア掲載

- 2026/2/14 東洋経済オンライン「国難級災害で"スマホ圏外"の怖さ。能登半島地震の教訓から我々はどう考え、備えるべきか」
<https://toyokeizai.net/articles/-/932635>

雑誌・書籍

- 2026/2/27 「2025年の災害とインターネット」インターネット白書 2026, pp.134-139 (佐藤大)

講演・ワークショップ

- 2025/8/2 みやぎの防災・減災ひろば「災害拠点病院とは」(佐藤大)
- 2025/11/11 JVOAD全国フォーラム「ワークショップ：災害支援における生成AIの活用」(宮川祥子、畑山満則)
*災害支援DXイニシアティブとして

学会・研究会での発表

- 2025/10/14-16 ITDRR 2025@Kyoto "Toward Phase-Specific Information Support in Disaster Response: Insights from a Decade of IT DART Operations in Japan" (Dai Sato, Shoko Miyagawa, and Michinori Hatayama)
- 2025/12/26 災害コミュニケーションシンポジウム 基調講演1「阪神・淡路大震災における情報処理環境」(畑山満則)
- 2025/9/7 日本地域看護学会第28回学術集会「災害時の情報支援 ---被災者の生活再建・健康維持に求められる重層的情報マネジメントとは」(宮川祥子)
- 2026/3/19-21 第31回日本災害医学会学術集会「R6能登半島地震にみる災害時健康支援の情報連携課題とその構造的要因」(宮川祥子)
- 2026/3/19-21 第31回日本災害医学会学術集会 シンポジウム18：歴史に学ばない災害対応「人流データを活用した災害対応」(畑山満則)

イベントの開催・協力

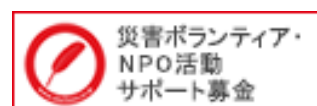
- 2025/6/28 IT DART 10周年総会記念イベント開催（JVOAD明城徹也氏、サイボウズ柴田哲史氏による講演）
- 2026/2/14 オンラインイベント「災害支援における生成AIの活用」開催（宮川祥子、畑山満則）
*災害支援DXイニシアティブとして



4. ご支援

いただいたご支援

活動にあたり、中央共同募金会（災害ボランティア・NPO 活動サポート募金）の助成を受けています。また個人・団体より計170,000円のご寄付を頂きました。皆さまのご厚志は、支援機材の購入や現地活動などに活用しております。



その他、咲楽屋からはパソコン20台のご寄付を、NTTドコモおよびソフトバンクからは多数の通信機器の貸与を頂きました（「1. 被災した地域への支援活動」もご参照下さい）。多大なご支援を頂き、心より御礼を申し上げます。

寄付、機材提供のお願い

継続的に現地での情報支援活動を行うために、みなさまからのご支援を必要としています。ご協力をよろしくお願いします。

- 寄付金： IT DART ウェブサイトの「ご寄付>[寄付金お申し込み](#)」でフォーム入力の上、振り込みをお願いします。
- 機器提供： パソコン、プリンター、モバイルルーター、携帯電話などの機器をまとめてご提供いただける場合は、ウェブサイトの「[お問い合わせ](#)」からご連絡をお願いします。

隊員登録のお願い

現地での活動以外にも、後方支援として情報入力／情報発信／情報分析／情報機器のセットアップ／梱包作業など、多くの作業が必要です。具体的な活動は、隊員用のSlackやGoogleグループ上で情報共有しながら行います。

活動にご参加いただける方は、IT DART への隊員登録（無料）をお願いします。隊員規約や登録フォームは、ウェブサイトの「[隊員](#)」をご参照下さい。

会員登録のお願い

IT DARTの目的に賛同して組織運営にご協力頂ける会員も募集しています。個人が対象で運営や企画に参加する正会員と、個人や法人が対象で活動をご支援頂く賛助会員の2種類があります。

正会員や賛助会員の詳細や申込みについては、ウェブサイトの「[会員](#)」をご参照下さい。IT DARTの組織運営にご興味がある方は、ぜひともご検討をお願いします。

IT DARTの活動は、皆さまからのご寄付や会費、さまざまな形でのご協力によって支えられています。引き続きご支援ご鞭撻を頂きますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

IT DART ウェブサイト
<https://itdart.org/>

